

## 第6章 公共交通に関する問題点および留意点

### 6-1 地域のおかれた状況

#### 6-1-1 高齢者の生活

○運転免許証を返納したくても返納できない高齢者が存在し、「今後もできる限り自分で運転を続けたい」とする高齢者も多くなっています。

○タクシーや家族・周囲の送迎に頼って生活する高齢者もみられます。

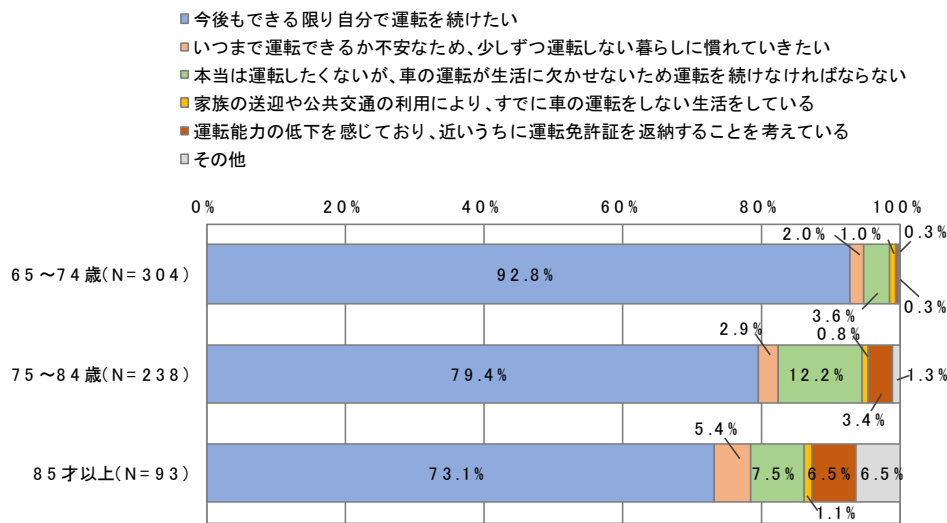


図 18 65歳以上高齢者の今後の運転免許証の返納に対する考え (図8再掲)

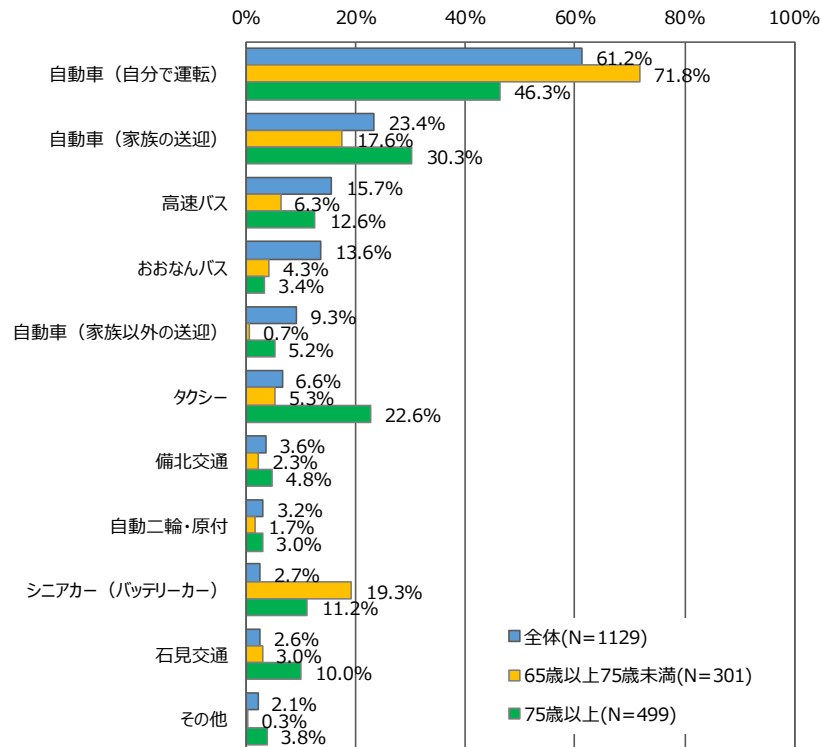


図 19 普段利用する交通手段 (住民アンケート調査より)

表 4 送迎を頼む高齢者に関する意見（民生児童委員アンケート調査より）

矢上	「運転ができなくなってから毎日の生活が不安で、都会の息子の所に行ったほうがいいのかしら」と言っていました。同じように不安に思っている人は多いし、私もそう思います。
出羽	病院にいきたい(予約がある)ので子供を休ませるということを聞くことがある。
阿須那	近所の人をお願いして自動車に便乗させてもらっているが、帰りの便がないので長時間待たなければいけない。子供は近くに住んでいるが子供に頼むと機嫌が悪いので頼めないし、子供には迷惑をかけたくないので、近所の人をお願いすると思うように動けない。病院に行くときは民生委員に頼んで送迎してもらっている。
阿須那	病院等の送迎で依頼があるため行っているが、民生委員として金銭の授受はできないので利用される方は心苦しがる。利用者が都合のいいとき遠慮なく利用できる機関が早くできることを望んでいる。

## 6-1-2 将来の生活に不安を抱える住民

○地域での暮らしについての将来への不安では、7割近くの人が「将来への不安がある」と回答し、その理由として、「将来運転ができなくなったら不安」、「移動手段がない・不便」と回答する人が多くなっています。

問：お住いの地域での暮らしについて、将来への不安はありますか？

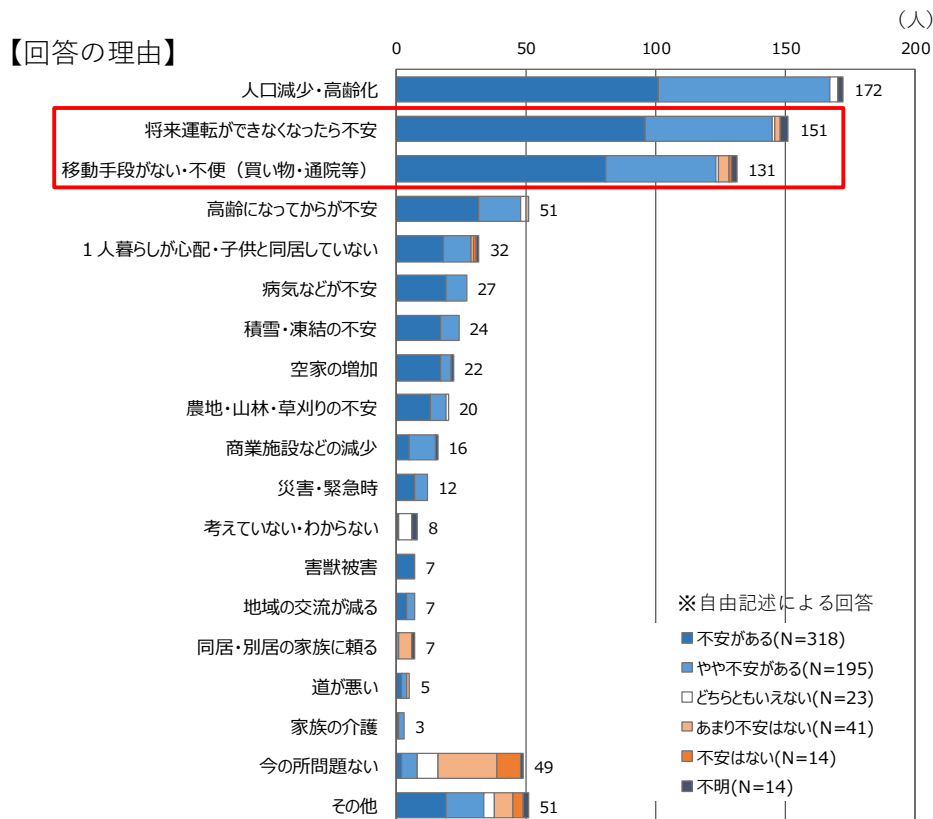
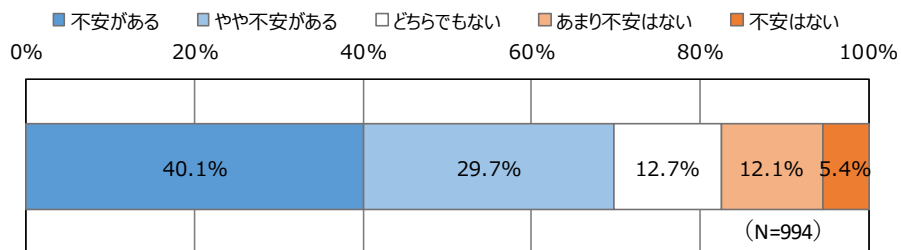


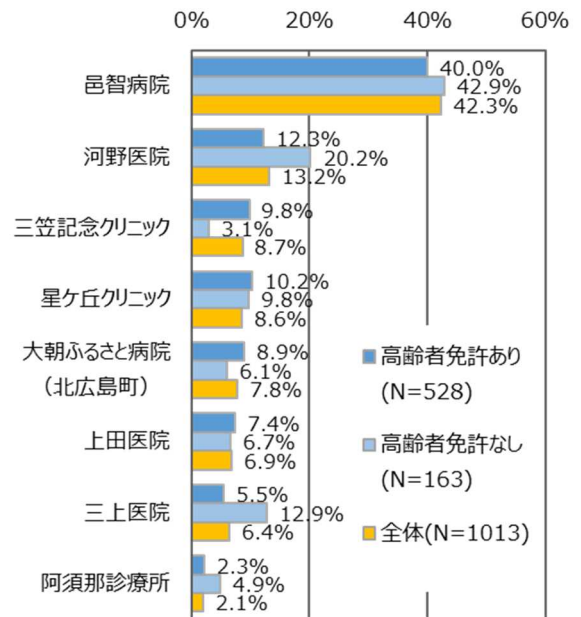
図 20 地域での生活についての将来への不安（住民アンケート調査より）

## 6-2 公共交通サービスに関する問題点や留意点

### 6-2-1 通院・買い物の移動ニーズへの対応

#### (1) 通院移動

- 通院先は邑智病院を拠点とする一方、中野、高原、市木、田所、出羽、口羽といった町内各所に医院が分布しています。
- 上記のような町内の医療機関への移動ニーズに対して、きめ細かに運行されたおおなんバスによって概ね対応できています。
- 一方で、65歳以上の運転免許証を持っている人と持たない人の移動を比較すると、運転免許を持たない人は町外への移動の選択肢に制約がみられます。



※井原診療所、日貫診療所、矢上診療所は回答なし

図 21 主な通院先 (住民アンケート調査より)

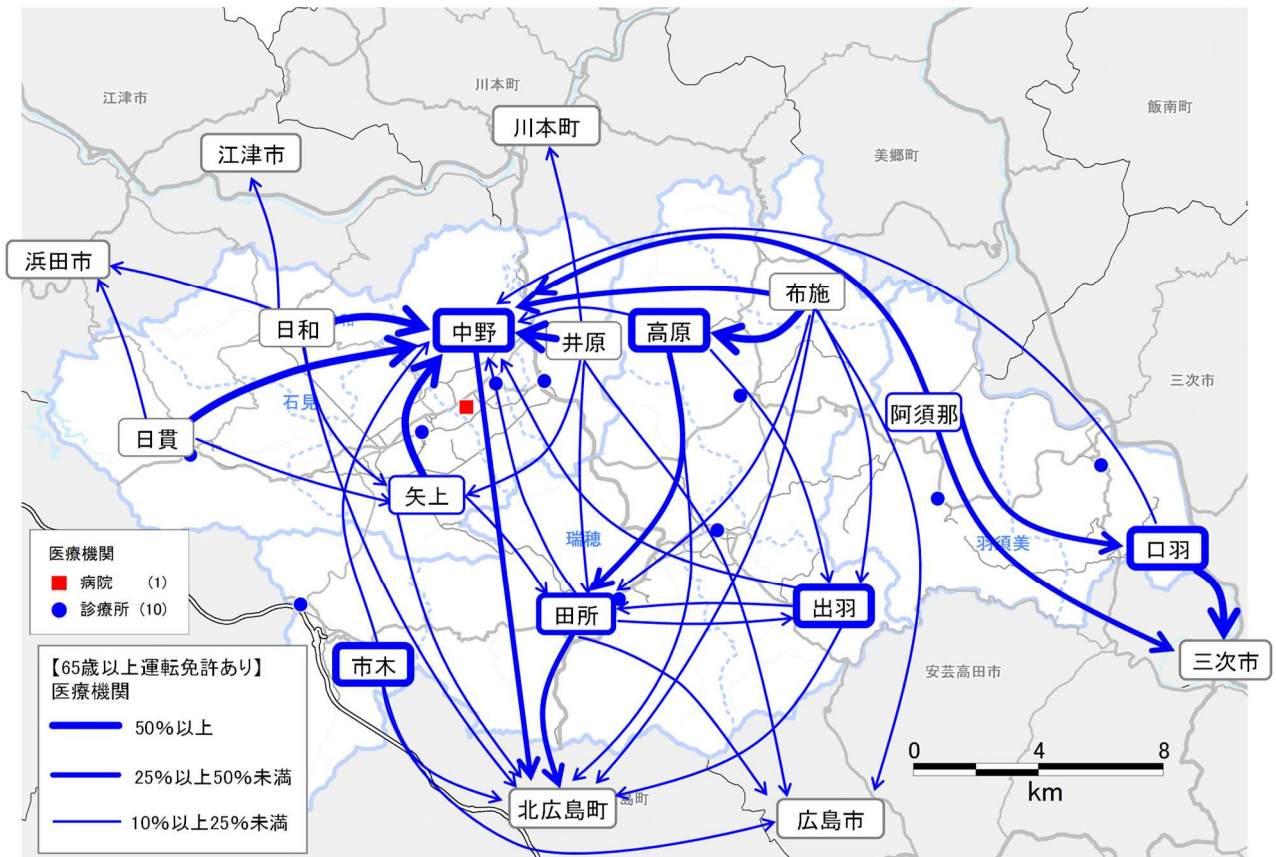


図 22 65歳以上高齢者の通院目的での移動状況 (運転免許証を持っている人)

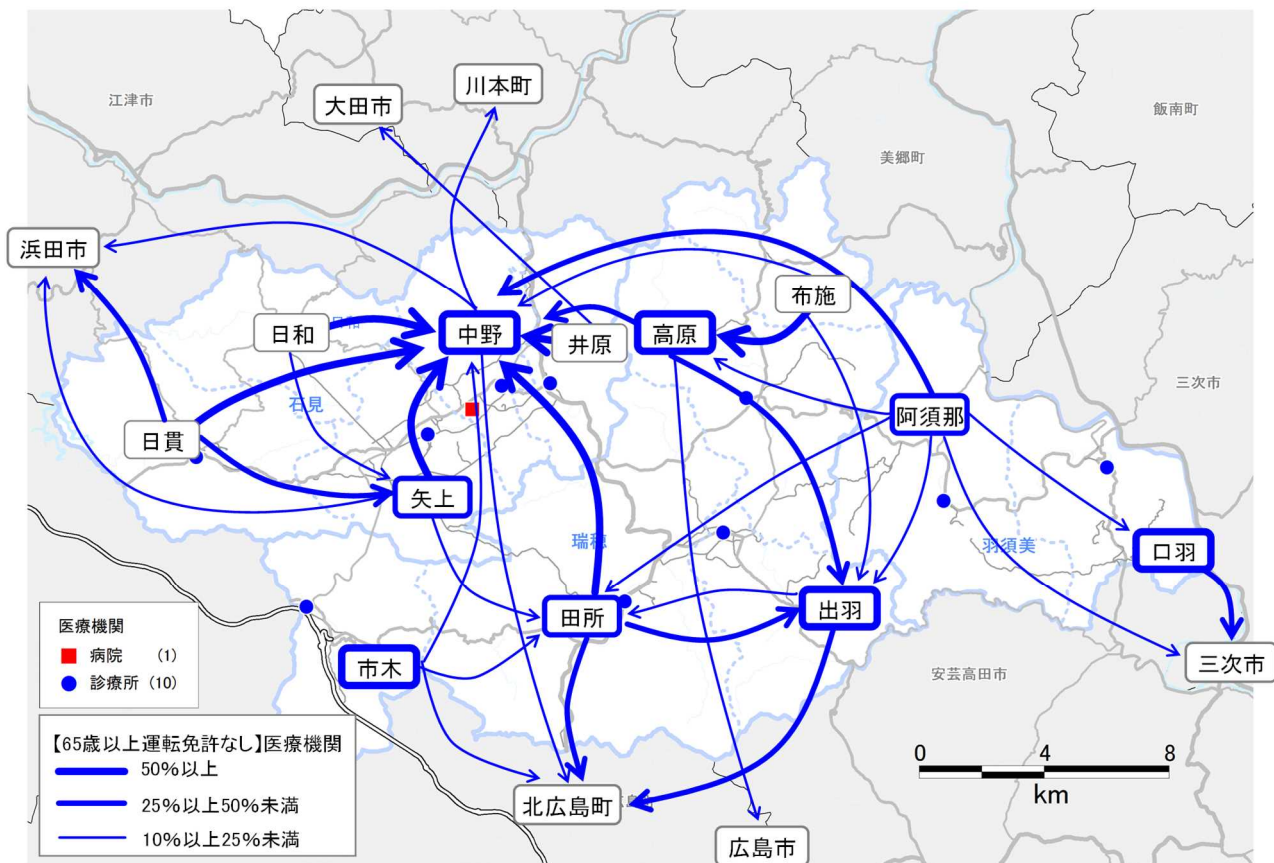


図 23 65 歳以上高齢者の通院目的での移動状況（運転免許証を持たない人）

(2) 買物移動

- 買い物先は、石見と瑞穂の中心部に集中している他、各地区に商店などがあり周辺住民の買い物需要を賄っています。
- 買い物の移動ニーズに対して、きめ細かに運行されたおおなんバスによって概ね対応できています。
- 一方で、65 歳以上の運転免許証を持っている人と持たない人の移動を比較した場合、通院と同じように運転免許を持たない人は町外への移動の選択肢に制約がみられます。
- 以上のように、町内の移動ニーズ（行きたい行き先に対する路線）はきめ細やかに運行されており概ね満たされています。一方で、曜日運行であることや、通学優先のため時間帯が合わない、バス停が遠いなどの状況があり、高齢者が利用しにくい状況となっています。

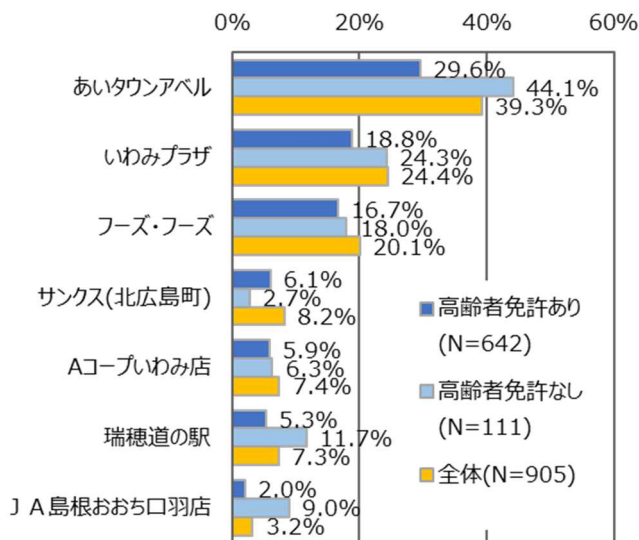


図 24 主な買物先（住民アンケート調査より）

表 5 バスの運行に関する意見（民生児童委員アンケート調査より）

高原	バス停まで 700mあるので負担。豪雪の際、通院の行き帰りができないことがある。
布施	車の運転をしていないので、通院が不便。バスの時間によっては長く待たなければならない。冬になればバス停まで行くのも大変。
宇都井	バスの便が早朝であったり、目的地と停留所が離れていて不便。病院は早便だと待ち時間があり、帰りは時間が合わない。買い物に行く際、行きは運動のためと思い歩いて行くが、帰りはバスを使いたくても時間が合わない。

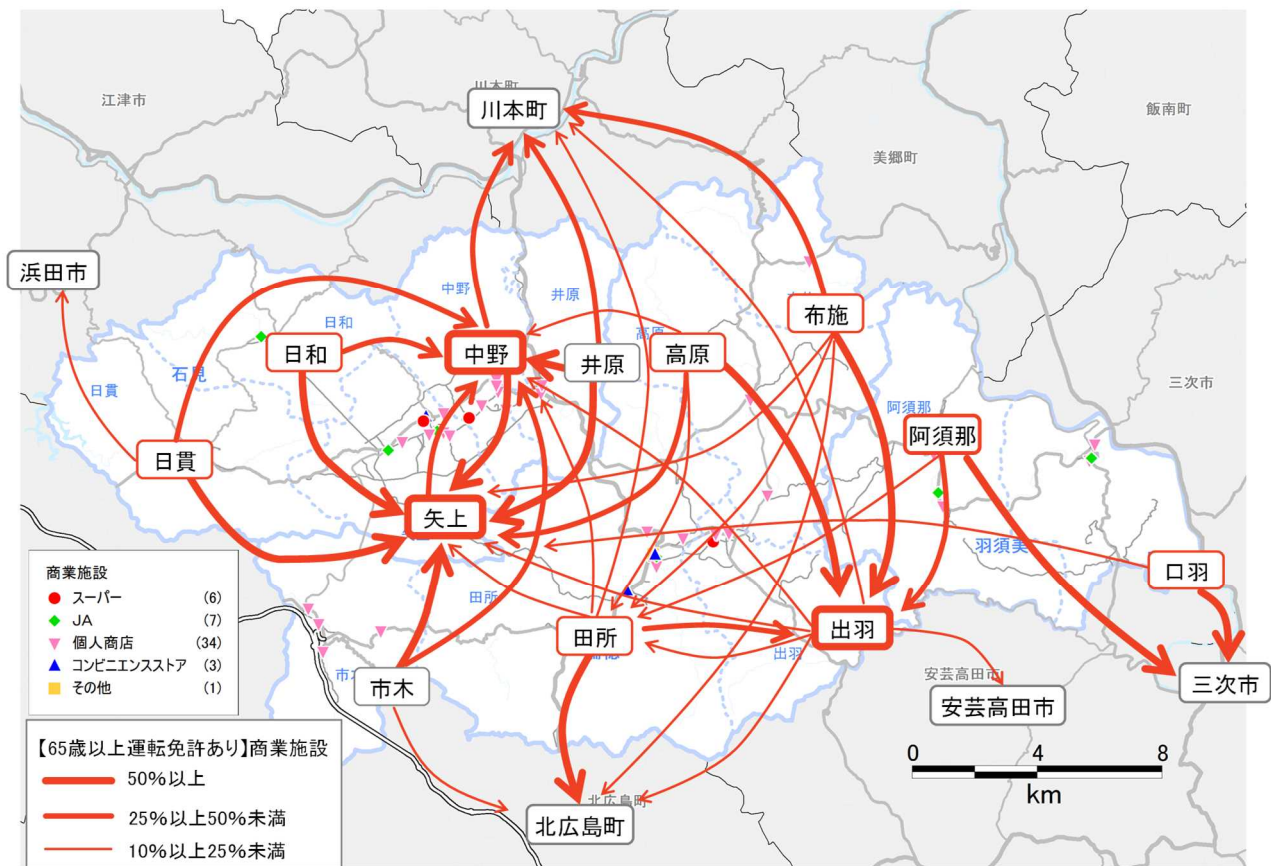


図 25 65歳以上高齢者の買い物目的での移動状況（運転免許証を持っている人）

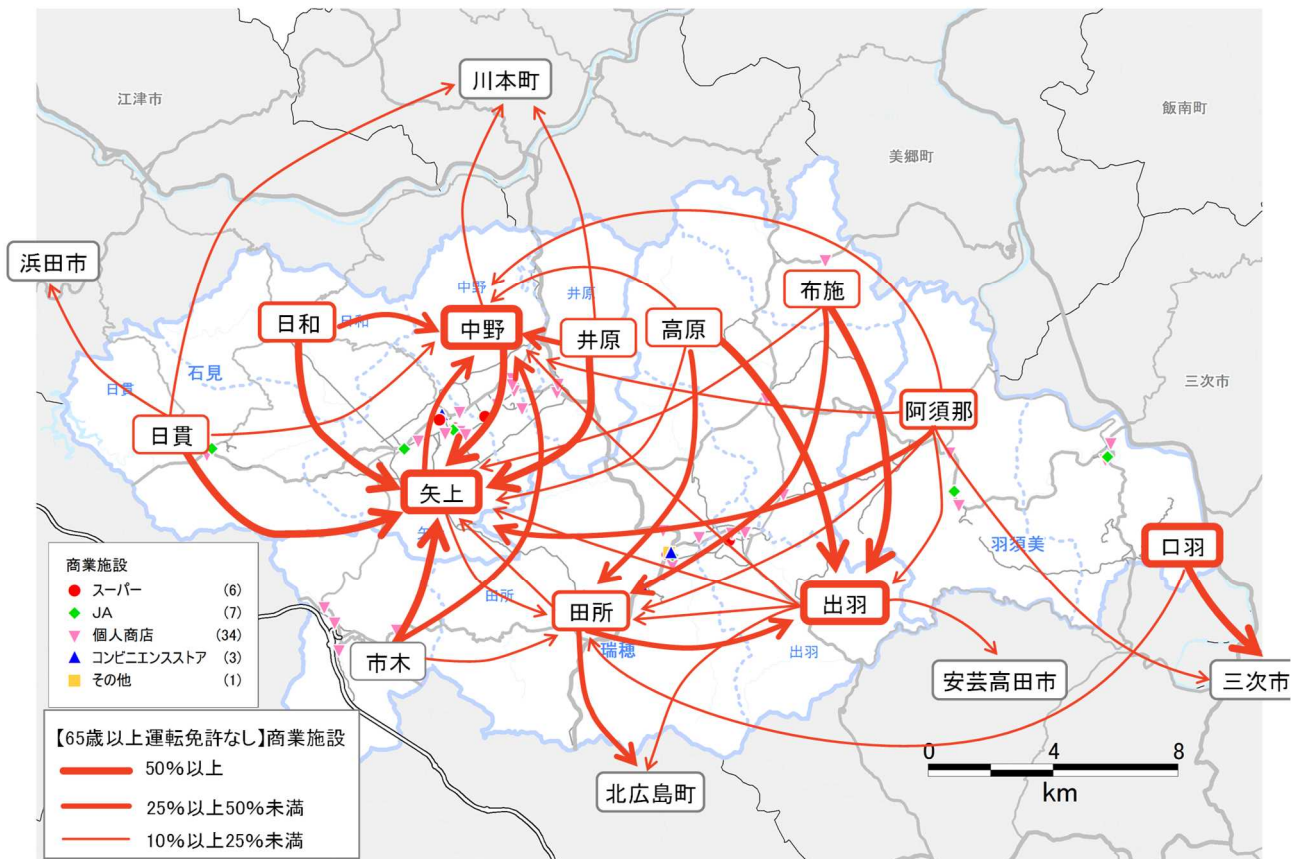


図 26 65歳以上高齢者の買い物目的での移動状況（運転免許証を持たない人）

## 6-2-2 バス停までの距離

- おおなんバスがきめ細かく運行されていることから、町内全域で圏域外(バス停から半径400m以上離れた地域または区域運行外)に暮らす人は、全人口の15.5%に留まっています。
- 地区別では、特に井原、中野、矢上、高原といった地区において、圏域外に暮らす人の割合が高くなっています。
- 一方、バス停圏域を100mとした場合、圏域外に暮らす人は、全人口の76.8%となり、アンケート調査からも長距離の歩行が困難な高齢者からは、「バス停までが遠い」という意見も多く挙がっています。

表 6 バス停半径 400m 圏域外に暮らす人の割合

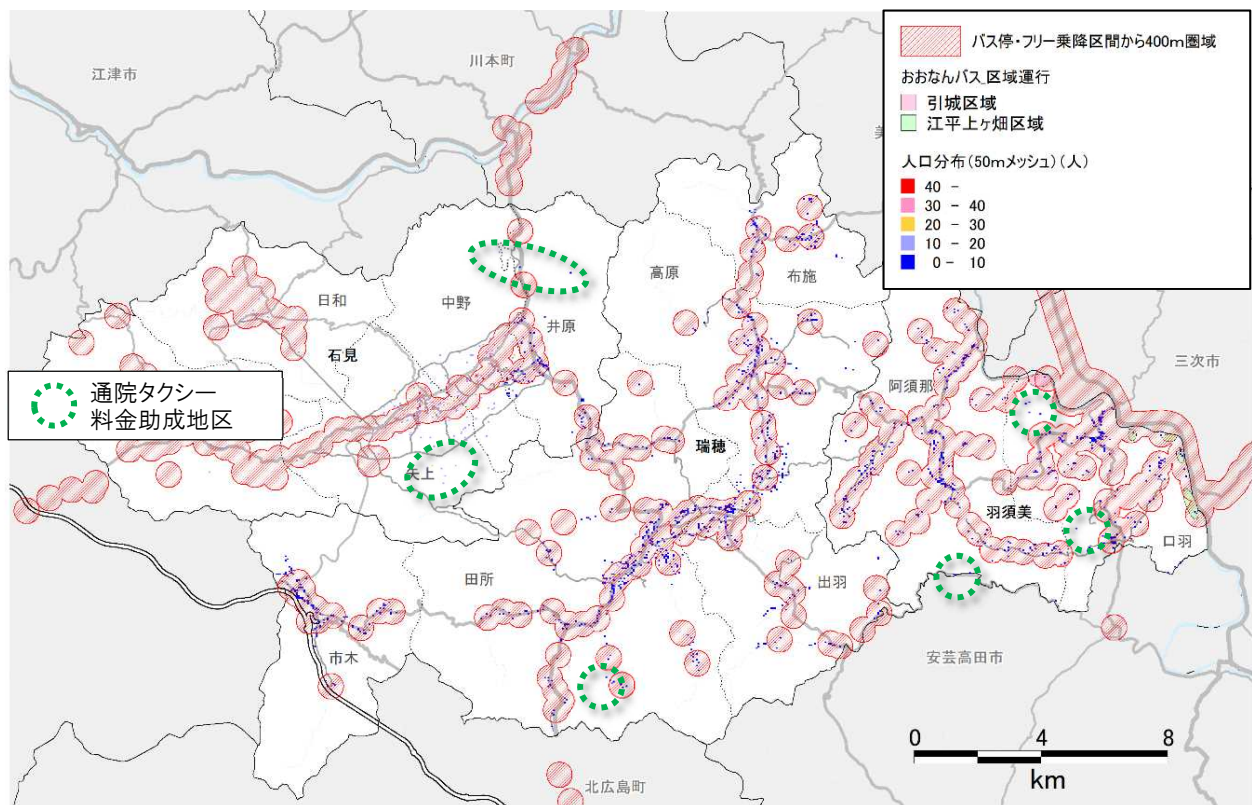
地域	地区	圏域外※に暮らす人	人口	圏域外に暮らす人の割合
石見	井原	176	646	27.2%
	中野	483	1,592	30.4%
	日貫	19	467	4.2%
	日和	0	409	0.0%
	矢上	451	2,199	20.5%
瑞穂	高原	190	933	20.3%
	市木	86	433	19.8%
	出羽	62	896	6.9%
	田所	160	1,909	8.4%
	布施	29	177	16.2%
羽須美	阿須那	25	711	3.6%
	口羽	36	729	5.0%
総計		1,718	11,101	15.5%

※バス停から半径400m 圏域または区域運行内を圏域内とする  
資料 2015年国勢調査

表 7 バス停半径 100m 圏域外に暮らす人の割合

地域	地区	圏域外※に暮らす人	人口	圏域外に暮らす人の割合
石見	井原	576	646	89.1%
	中野	1,265	1,592	79.5%
	日貫	253	467	54.2%
	日和	321	409	78.6%
	矢上	1,736	2,199	78.9%
瑞穂	高原	788	933	84.5%
	市木	304	433	70.2%
	出羽	687	896	76.6%
	田所	1,590	1,909	83.3%
	布施	153	177	86.2%
羽須美	阿須那	441	711	62.0%
	口羽	414	729	56.7%
総計		8,527	11,101	76.8%

※バス停から半径100m 圏域または区域運行内を圏域内とする  
資料 2015年国勢調査



資料：国勢調査（2015年）・電話帳（2014年）

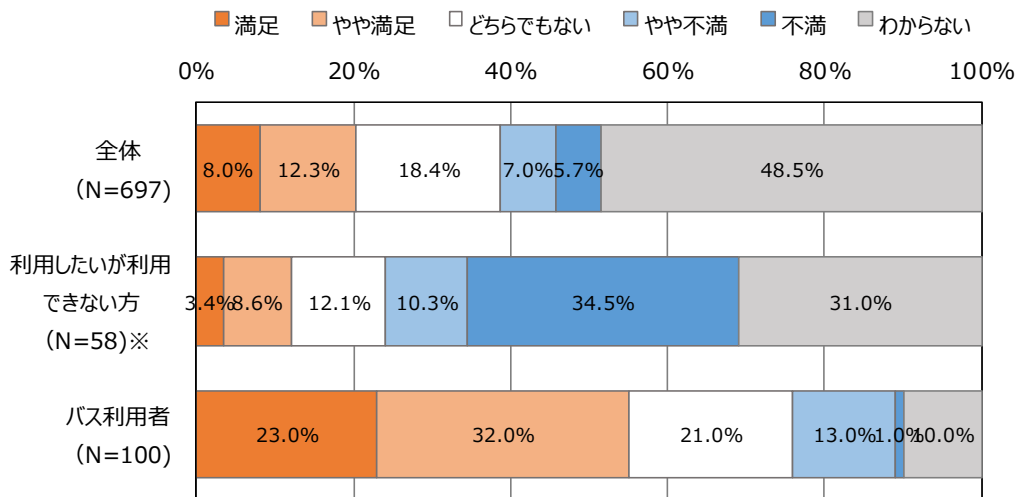
図 27 人口分布とバス停 400m 圏域

表 8 バス停までの距離に関する意見（住民アンケート調査より）

地区	年齢	意見
日貫	83	バス停以外の所でも乗り降りが出来ればありがたい
矢上	83	バス停までの交通手段がない
	88	バス停以外で止めてくだされば、老人の利用者が増えるのではないのでしょうか。
井原	54	バス停まで徒歩 1km有り不便である。
	86	自動車の運転免許返納を考えている。その後の交通手段については、通院、買物(商店等)に行くのに、バス停が遠いので(足が弱いので)タクシーのチケット(月千円程度)があれば
日和	80	バス停まで遠いため利用しにくい
高原	82	自分の家からバス停まで 100m程度の距離の範囲に停留所を設けてもらいたい(300m~500m歩くのは苦痛である)
阿須那	88	バス停まで遠いので出かけられない。

### 6-2-3 おおなんバスに対する評価

- おおなんバスの総合的な満足度に関しては、回答者の半数近くが「わからない」と回答していることから、バスのサービス内容が十分認知されていない状況が見受けられます。
- サービスの内容別では、「料金」や「目的地までの乗車時間」、「始発便の時間」、「運転手の対応」といった項目で満足度が高い一方で、「バスとバスとの乗り換え」や「運行内容のわかりやすさ」、「時刻表や路線図のわかりやすさ」、「バス停で得られる情報」、「バス停周辺スペース」などで満足度が低くなっています。



※おおなんバスを利用しない理由として、「利用したいが不便で利用できないため」または「利用したいが利用方法がよくわからないため」と回答した方

図 28 おおなんバスの総合的な満足度（住民アンケート調査より）

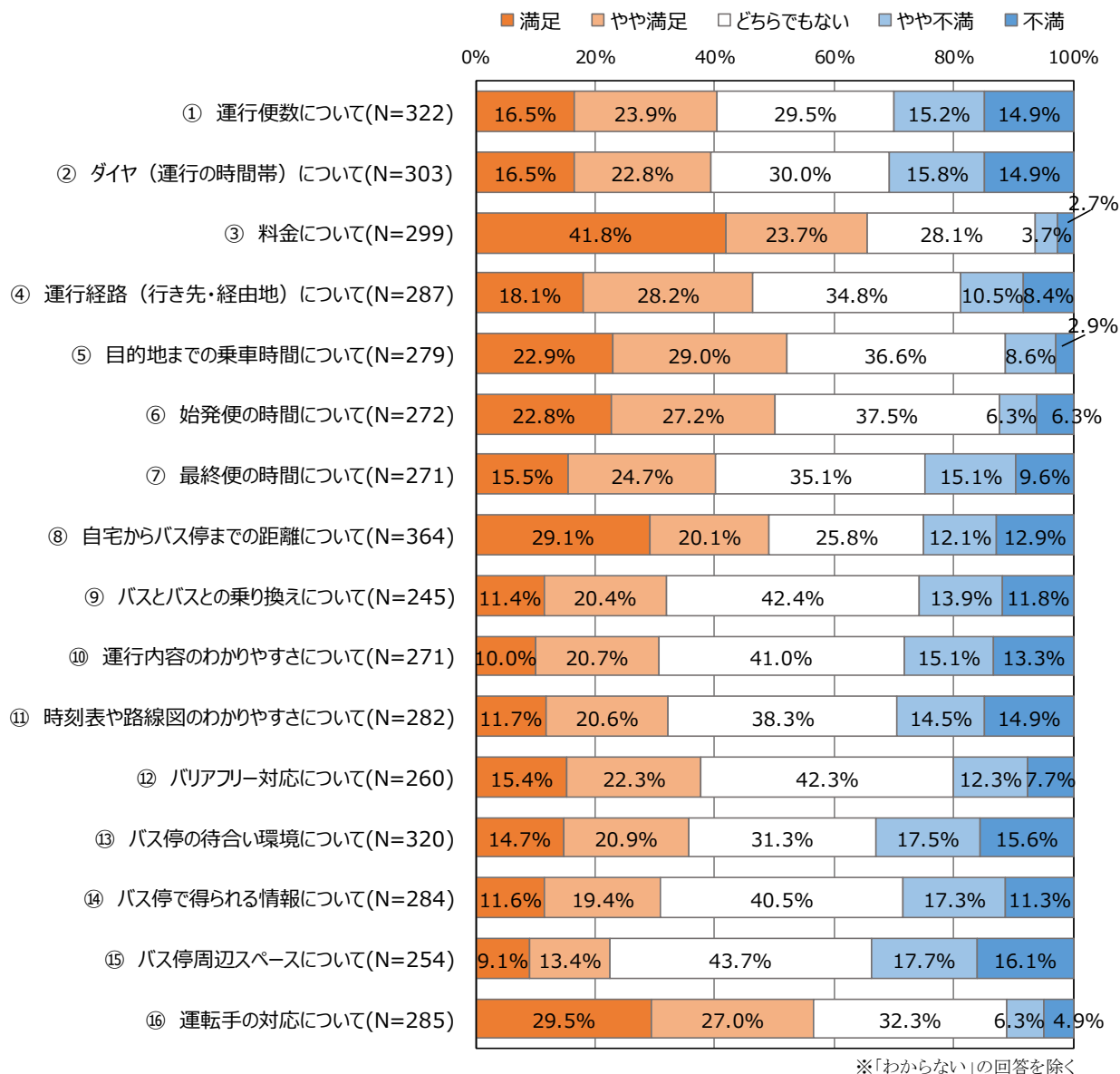
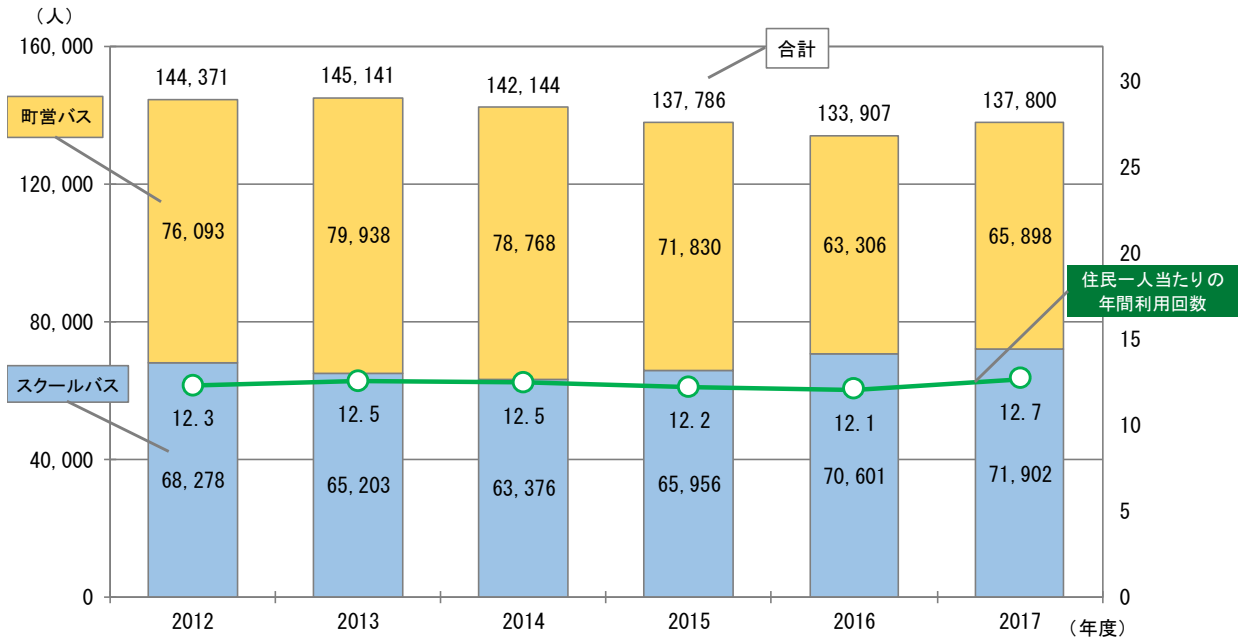


図 29 おおなんバスのサービス項目別の満足度（住民アンケート調査より）

#### 6-2-4 おおなんバスの利用状況と運行経費

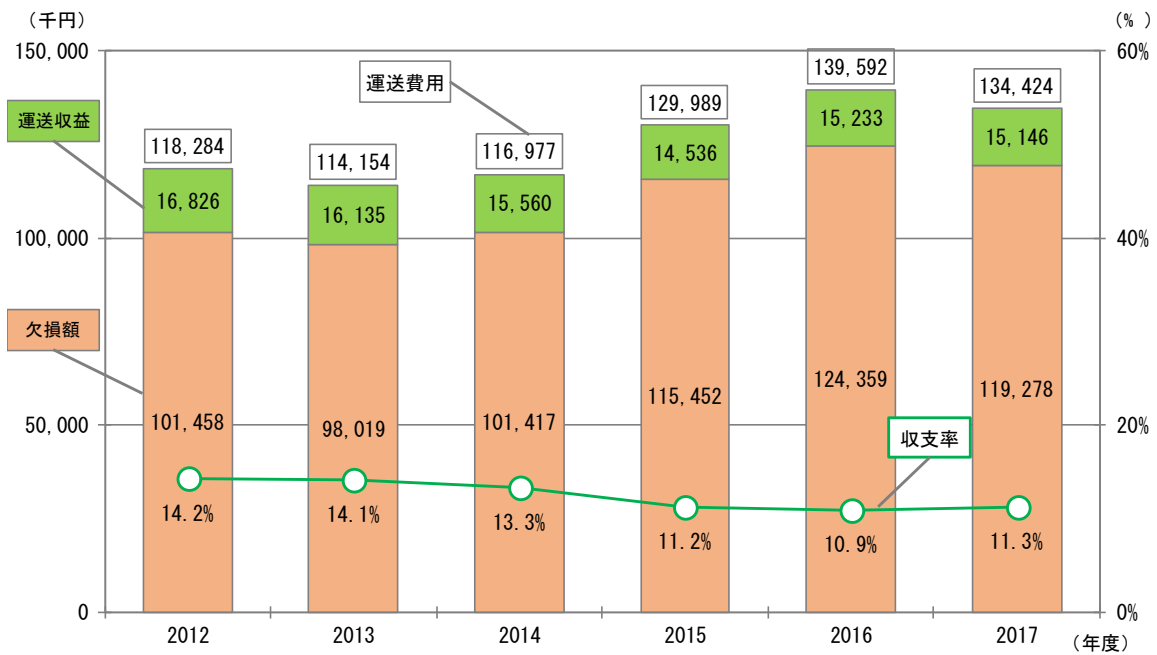
- おおなんバスの利用者は、この5年間で6,600人/年程度減少し、2017年度では137,800人/年（住民一人あたり12.7回/年・人）となっています。
- 一方、運行経費は年々増加しており、この5年間で約1,600万円/年増加し、約1億2千万円の赤字が発生しています。収支率もおおなんバス全体で11.3%と極めて低く、非効率な状況となっています。





資料：人口) 住民基本台帳（各年度3月31日時点）、利用者数) 邑南町定住促進課

図 30 おおなんバス利用者数の推移

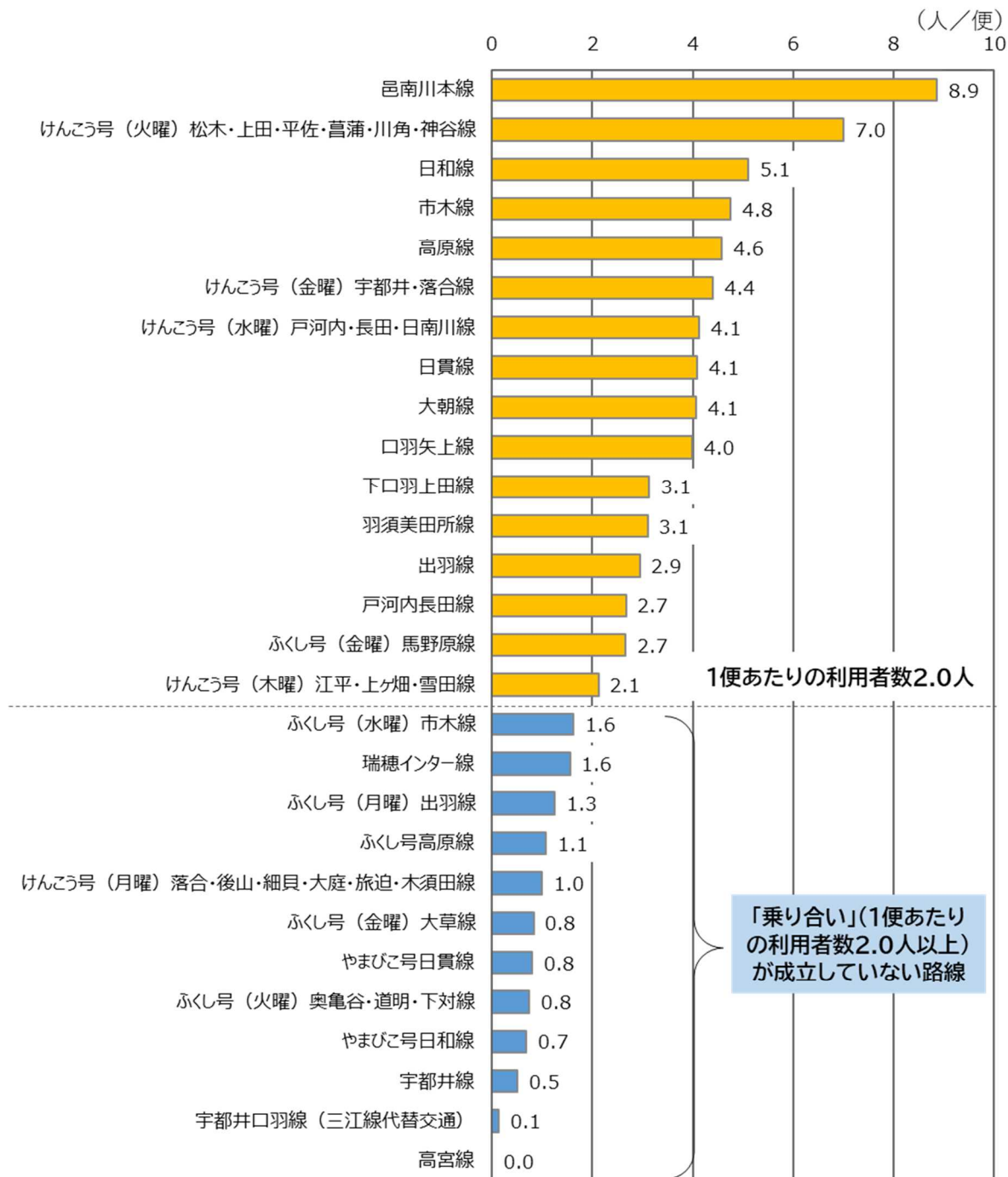


資料：邑南町定住促進課

図 31 おおなんバス収支状況の推移

○おおなんバスの路線では、収支率の低い路線や利用者が 2.0 人未満で「乗り合い」が成立していない路線が複数存在しています。

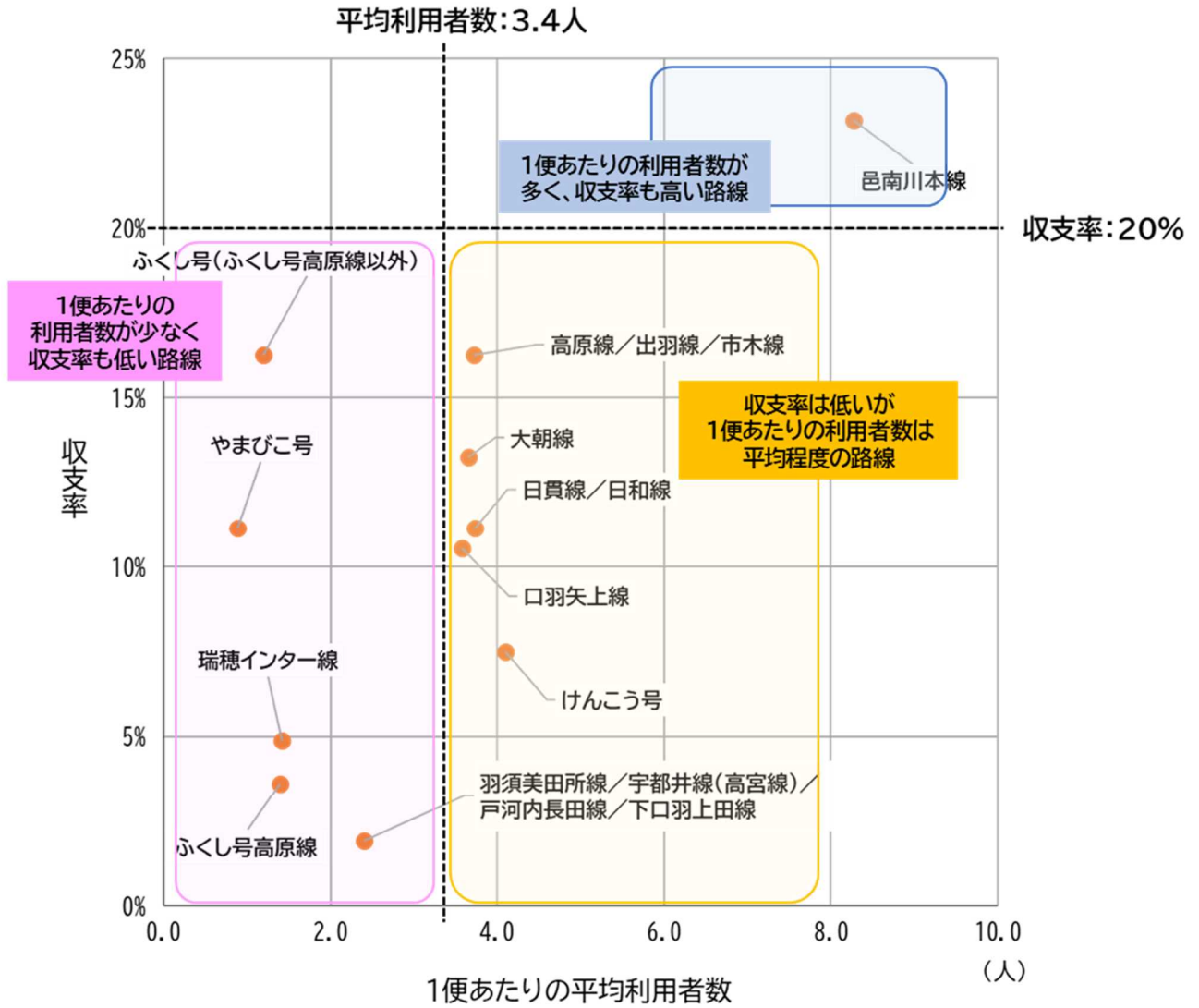
○それぞれの路線は谷筋ごとに細かく運行しており、長距離路線となって非効率な運行となっています。



資料：乗降調査 (2018年6月1日～30日のうち路線により調査期間は15～30日間)

図 32 おおなんバスの路線別 1 便あたりの平均利用者数

- 利用者数、収支率ともに低い路線では、運行そのものの必要性や運行形態等の見直しが必要となります。また、収支率が低い路線に関して、経費の削減や運行サービスの改善が必要です。
- 特に、ふくし号ややまびこ号では1便あたりの平均利用者数が2人未満の路線がほとんどあり、サービス内容の改善が求められます。



資料：2017年度町営バス等運行実績（邑南町定住促進課）

図 33 路線別の1便あたり平均利用者数と収支率の関係

## 6-3 通学への対応に関する問題点や留意点

### 6-3-1 小学生・中学生の通学

- 通学に対応するために一般混乗可能なバスが運行されていますが、自宅～学校間、自宅～バス停間、自宅～集団登校の集合場所間等において保護者による送迎もみられます。
- 小学生・中学生の通学に運行されているバスも、授業の時間に合わない場合や部活動への対応、テスト期間中など学校行事の際の対応が困難な場合があります。
- 積雪時などのバスの運行に関する情報共有（連絡体制）の検討が必要とされています。
- おおなんバスは校区内の児童・生徒については通学できるよう対応していますが、校区外からの通学生への対応は難しい状況です。

表 9 バスの運行に関する意見（小学校・中学校アンケート調査より※学校代表者回答）

小学校	口羽小学校	冬季、運行が大幅に遅れるような状況での連絡体制を検討していただきたい。
	高原小学校	校区外(瑞穂小校区)から通学している児童が2名いるが、下校の際16:30頃のバスに乗らないと、18:10頃のバスしかない。出来れば17:30頃のバスがあるとありがたい。(校区外)
	瑞穂小学校	学校での時程をバス時刻に合わせている。特に下校は15:45発高原線を利用する児童がいるため、6校時終了をギリギリの15:35としている。放課後の活動等もできない。(校区外)
中学校	羽須美中学校	学校行事等で早く下校する場合、安全に下校するために、3時～4時に運行する通学バスを希望します。
	瑞穂中学校	土曜日の昼の部活動終了後の帰宅する便が不便な路線がある。夕方、15時台の中学校を出る各路線の時間がもう少し遅くなると、本校の生活時間ではとても便利になる。

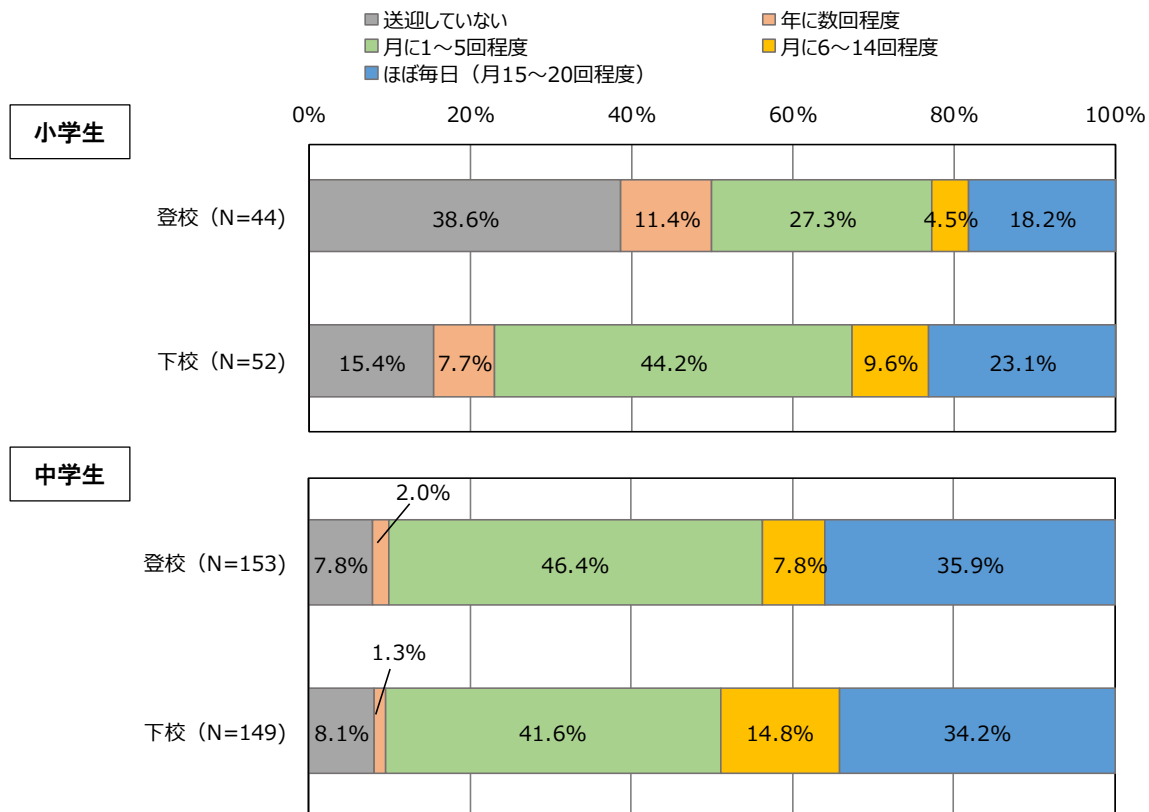


図 34 小学生・中学生の保護者による送迎頻度（小学校・中学校アンケート調査より）

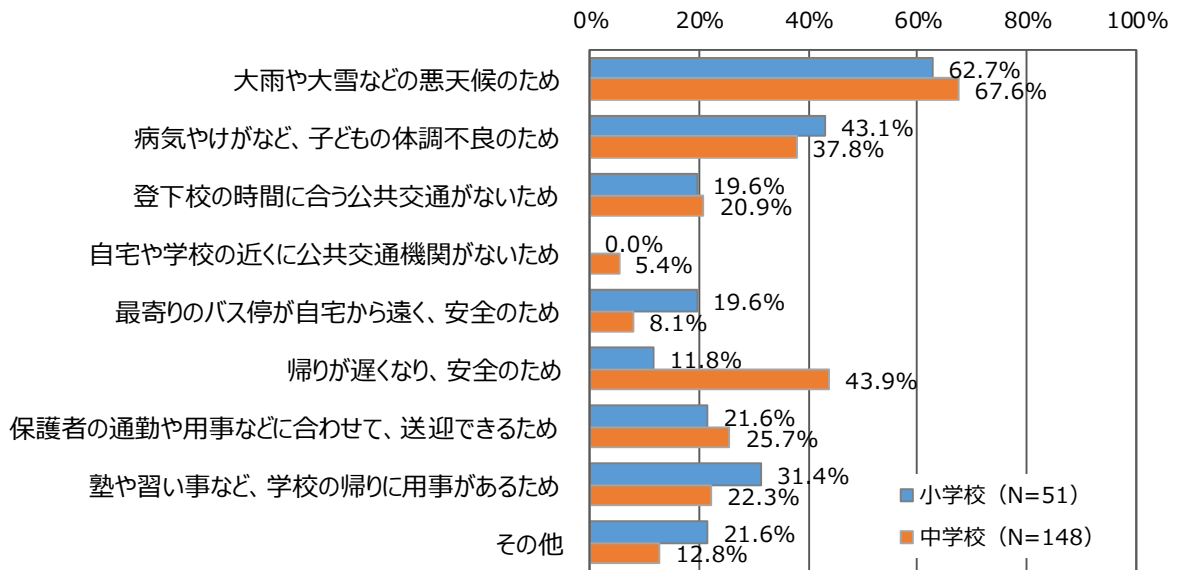


図 35 小学生・中学生の保護者が送迎を行う理由（小学校・中学校アンケート調査より）

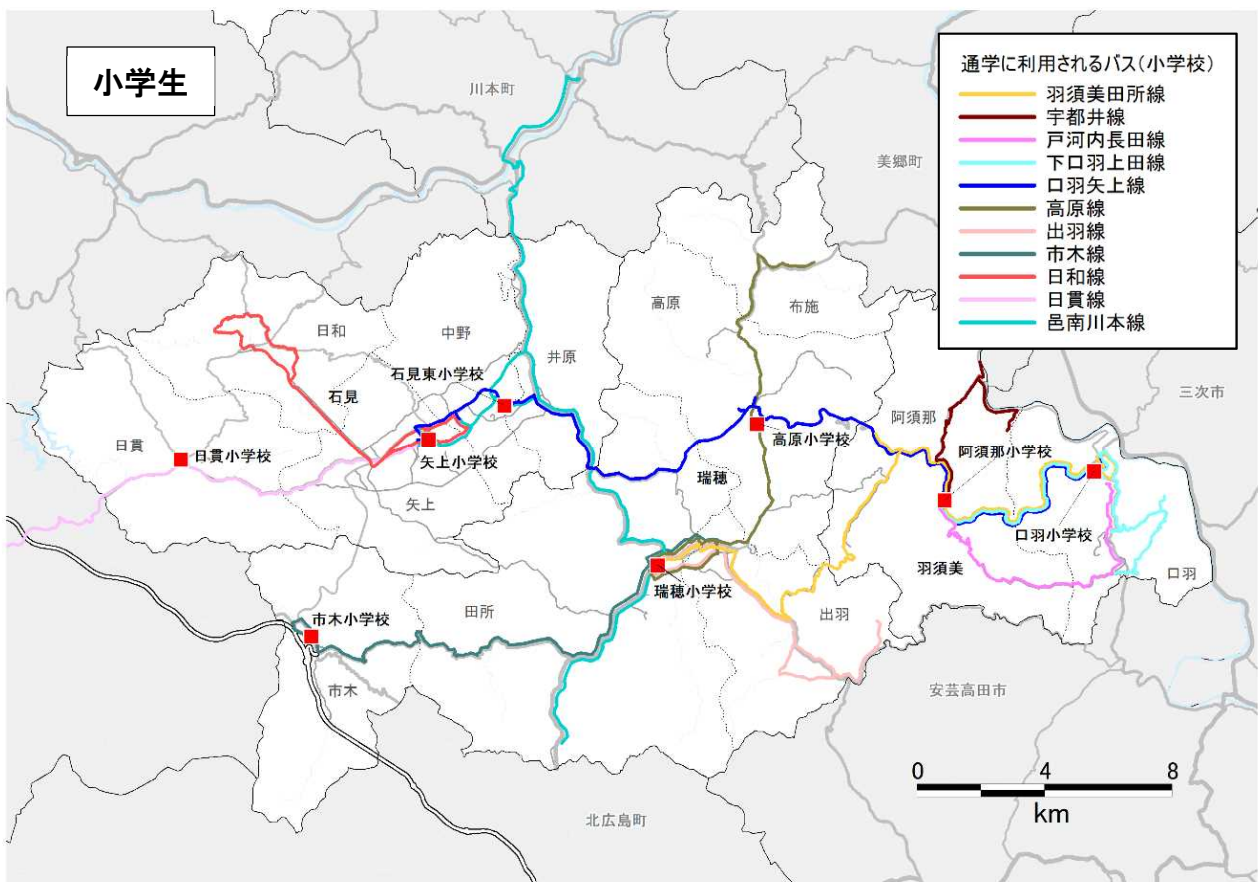


図 36 小学生の通学に利用されるバス

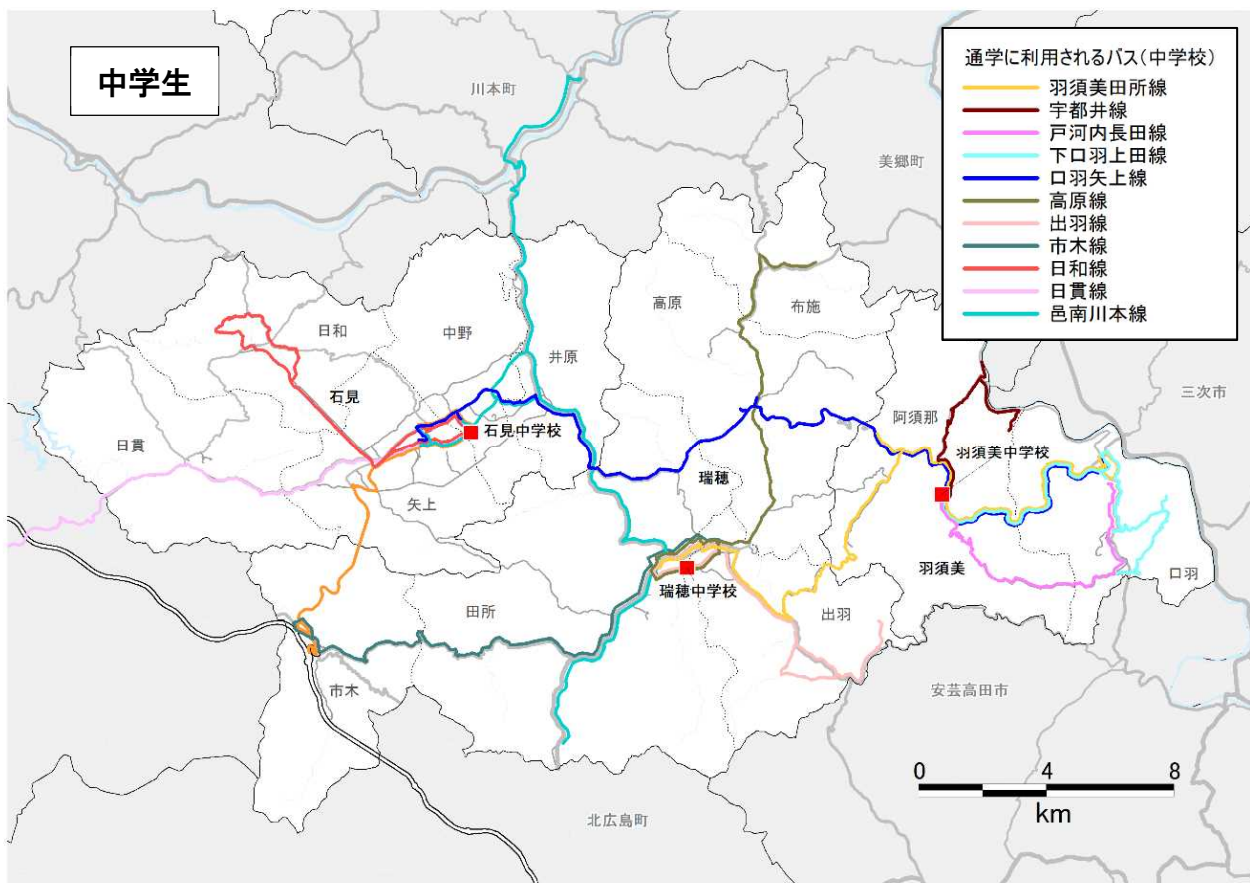


図 37 中学生の通学に利用されるバス

### 6-3-2 高校生の通学

- 町内外の高校生がおおなんバスを利用し通学しています。
- 一方で、保護者による送迎も多く、その理由として「登下校の時間に合う公共交通がないため」との回答が最も多くなっています。また、安全性を理由とする意見も多く見受けられます。

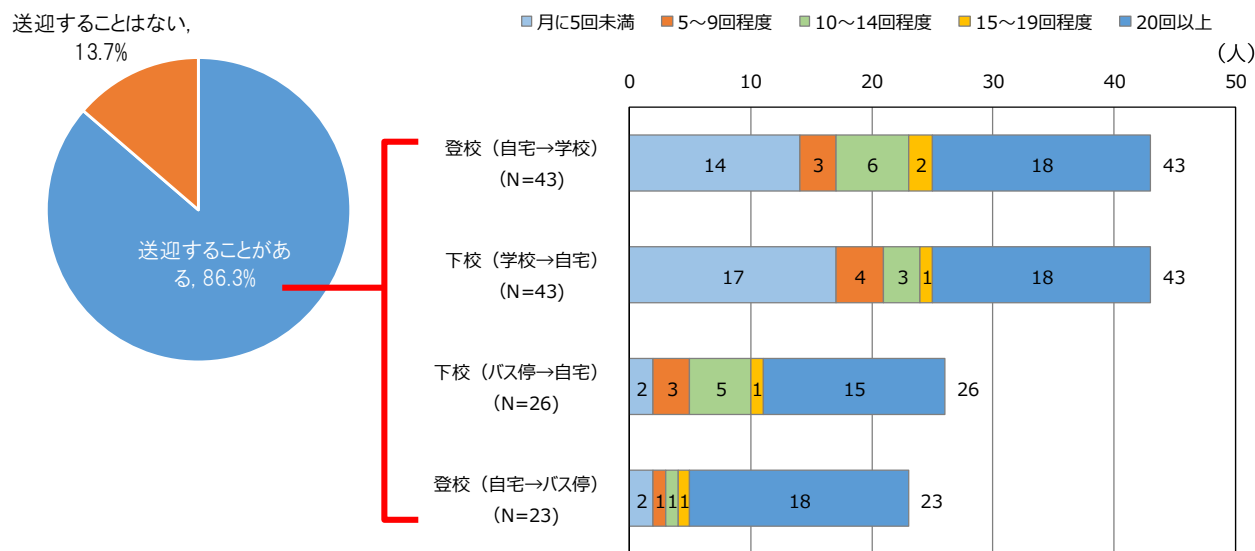


図 38 保護者が送迎を行う頻度 (高校生・保護者を対象としたアンケート調査より)

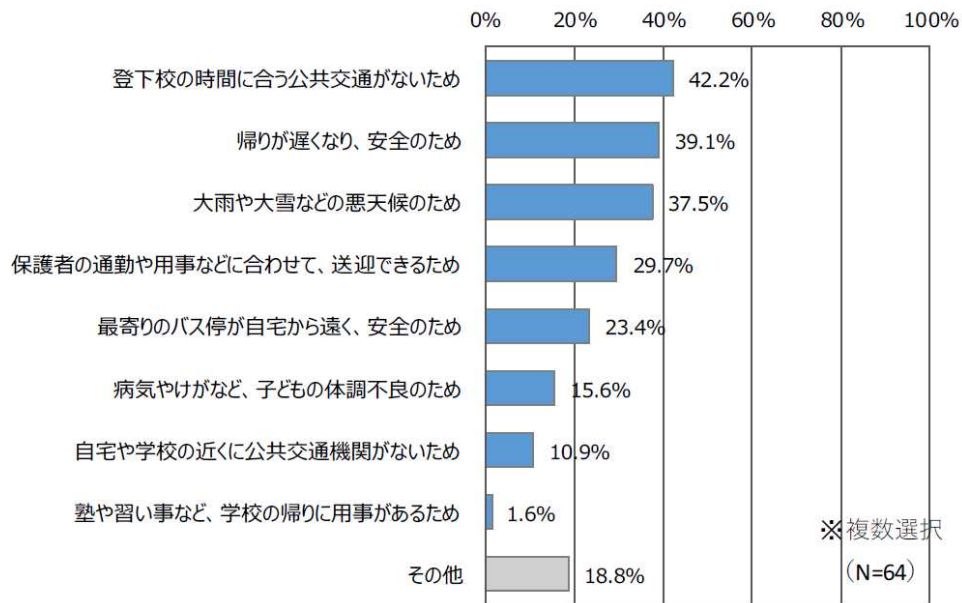
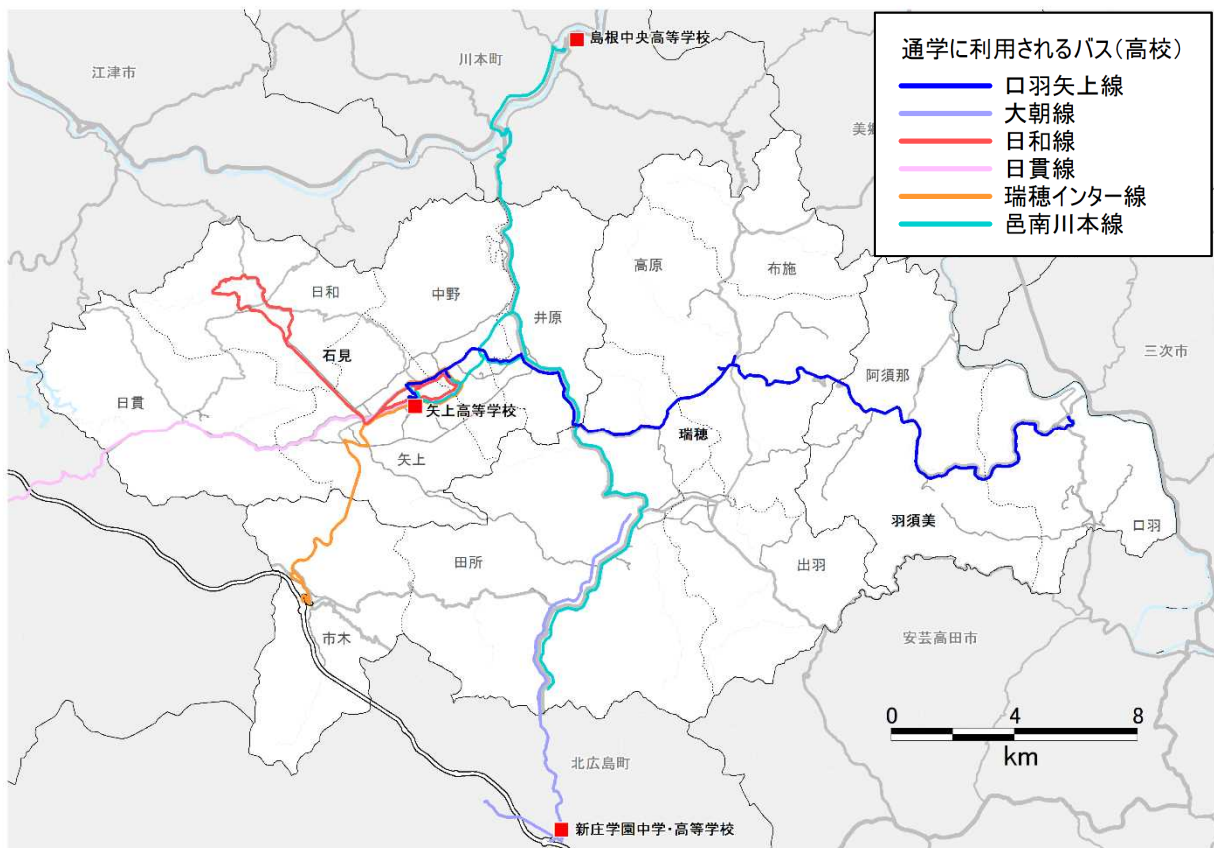


図 39 保護者が送迎を行う理由（高校生・保護者を対象としたアンケート調査より）



※上記の他に、矢上高校・石見養護学校の専用便として、大和便（美郷町大和方面～石見高原）、金城便（浜田市金城町～石見今市）を無料運行している（専用便から、口羽矢上線、日貫線に乗り継いで通学）

図 40 高校生の通学に利用されるバス

## 6-4 利用促進や住民意識に関する問題点や留意点

### 6-4-1 情報提供

- おおなんバスは、合併前の運行を引き継ぎながら谷筋ごとに細かく路線が分割し運行されていることや、スクールバス混乗路線では季節によって運行内容が変わるなど、初めて利用する方や来訪者にはわかりにくい運行となっています。
- ホームページや時刻表の冊子などから時刻表は確認できますが、サービス内容はバス利用者以外の住民には十分理解されていないのが現状です。

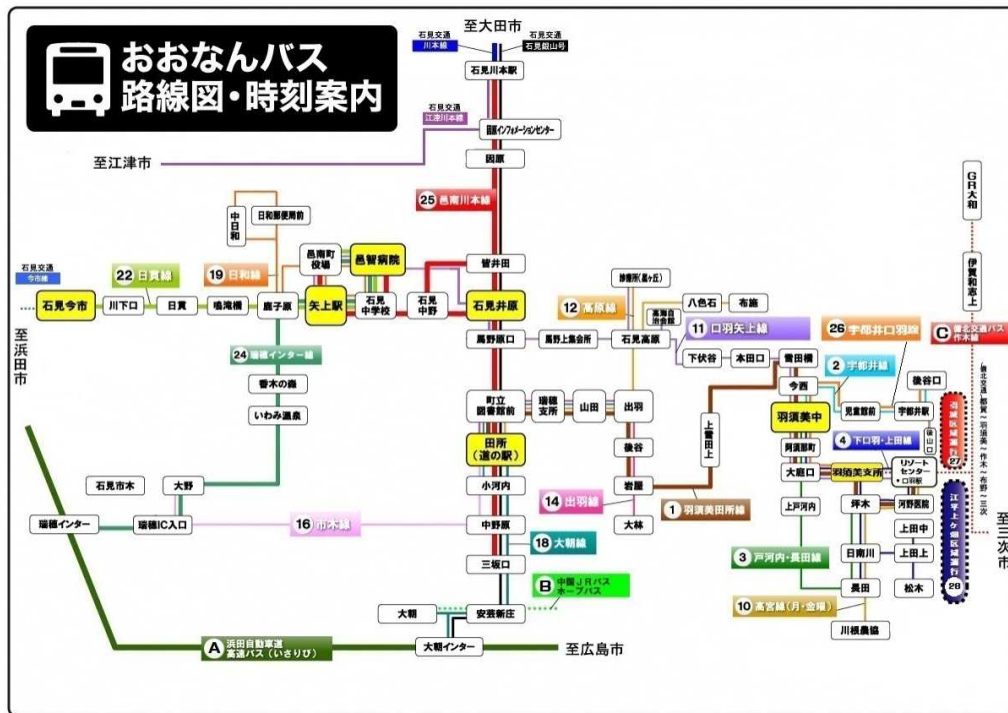
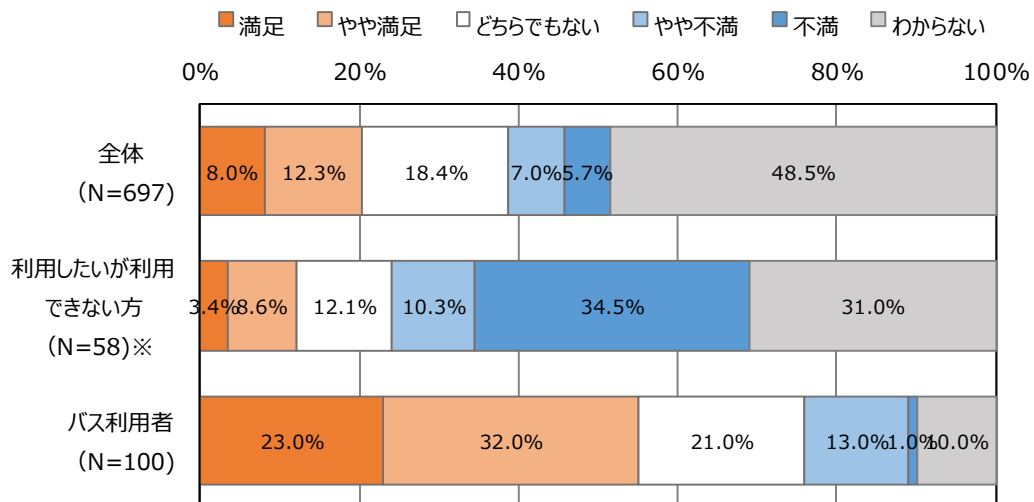


図 41 ホームページに掲載される路線情報



※おおなんバスを利用しない理由として、「利用したいが不便で利用できないため」または「利用したいが利用方法がよくわからないため」と回答した方

図 42 おおなんバスの総合的な満足度（住民アンケート調査より）※再掲



## 6-4-2 バスサービスに対する住民意識

- 今後のバスサービスに対する考えでは、「現状並みの町の負担で、適宜改善を加えながら現状程度のサービスを維持するべき」との回答が最も多く、「町に頼るだけでなく、地域が主体となって自分たちの交通について考えるべき」との回答も次いで多くなっています。
- 「少しでも地域の公共交通を利用しようと思う」とする意識も高くなっています。

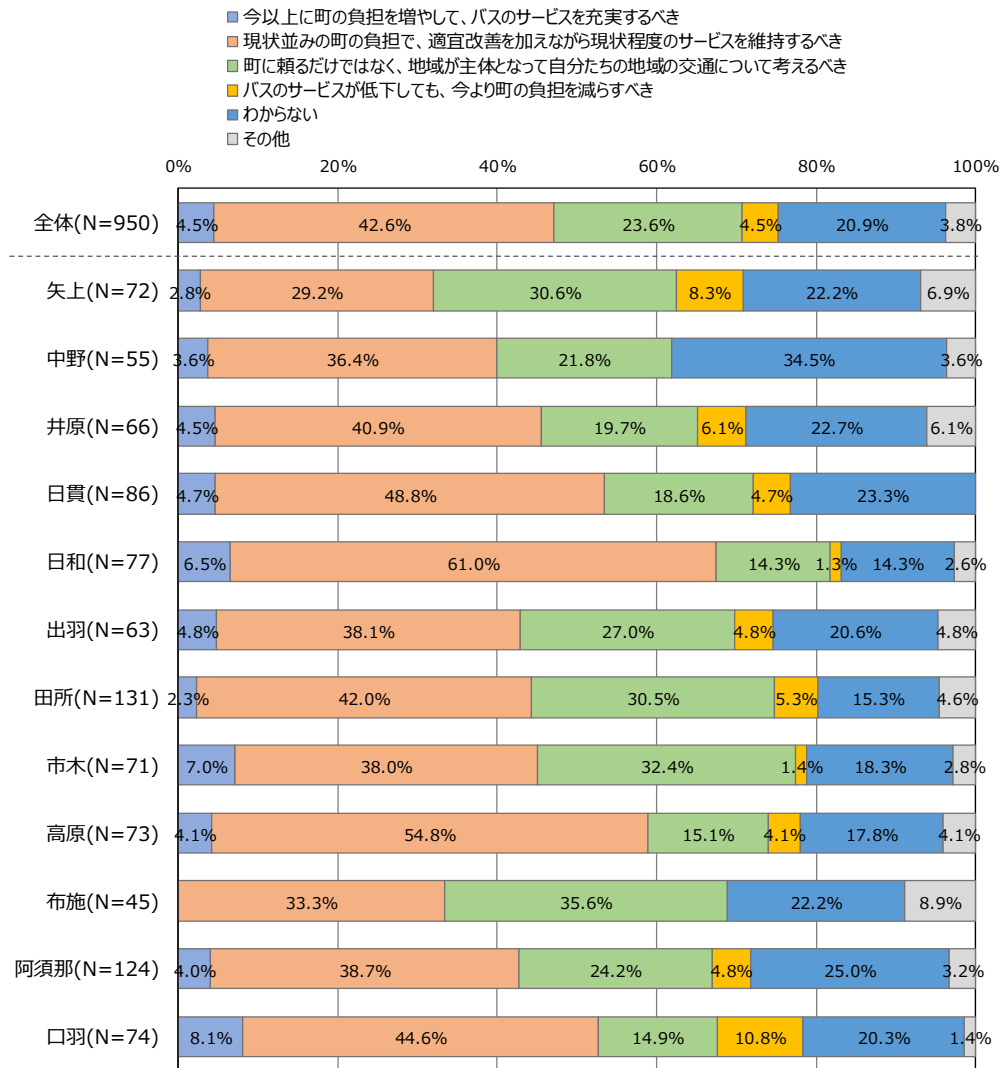


図 43 今後のバスのサービス水準と経費負担に関する意識（住民アンケート調査より）

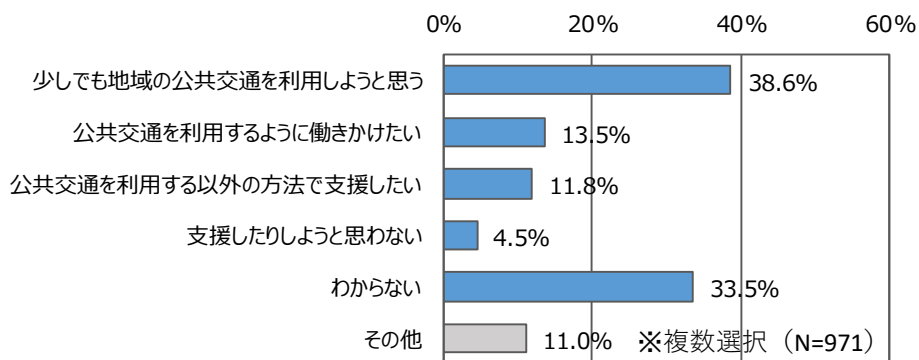


図 44 今後のバス利用や支援に関する意識（住民アンケート調査より）

### 6-4-3 生活支援やまちづくりに関する意識

- 12の公民館区単位の活動が活発に行われています。
- 交通以外のサービスも含めてあるとありがたいと思うサービスでは、「除雪の手伝い」や「惣菜や弁当の販売」、「日用品の販売」などを応える声が多くなっています。また、こうした求められるサービスは地区によっても異なります。

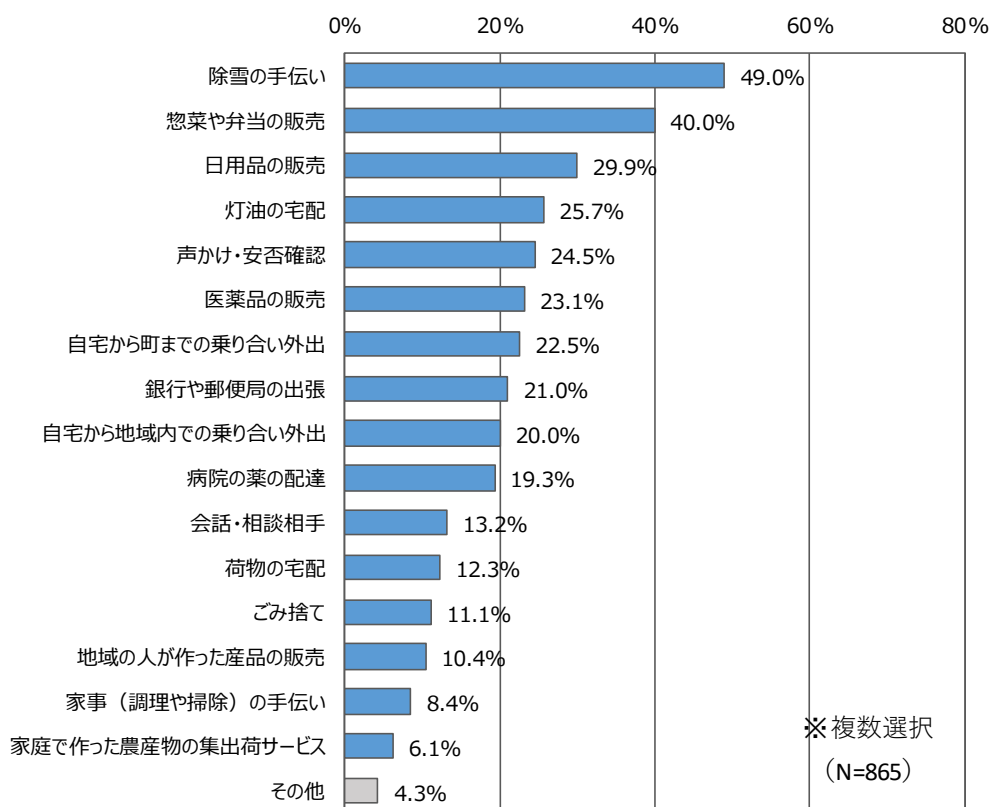


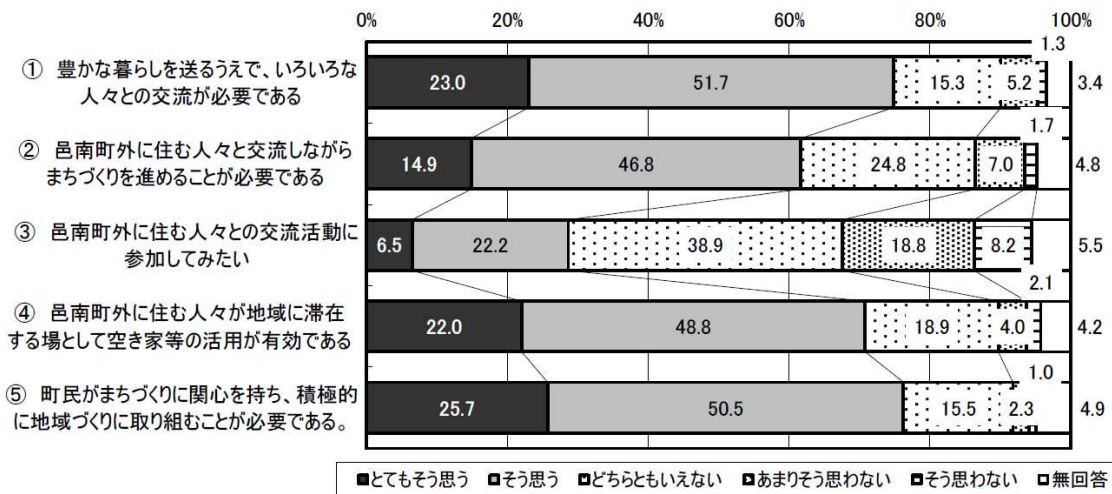
図 45 身近な地域であるとありがたいと思うサービス（住民アンケート調査より）

表 10 地区別の身近な地域であるとありがたいと思うサービス（住民アンケート調査より）

	矢上 (N=54)	中野 (N=45)	井原 (N=58)	日貫 (N=80)	日和 (N=73)	出羽 (N=56)	田所 (N=87)	市木 (N=60)	高原 (N=69)	布施 (N=43)	阿須那 (N=117)	口羽 (N=108)
惣菜や弁当の販売	31.5%	33.3%	41.4%	61.3%	49.3%	39.3%	35.6%	40.0%	27.5%	32.6%	41.9%	38.0%
医薬品の販売	16.7%	22.2%	10.3%	16.3%	17.8%	44.6%	42.5%	10.0%	33.3%	11.6%	19.7%	24.1%
病院の薬の配達	27.8%	20.0%	12.1%	22.5%	34.2%	30.4%	14.9%	20.0%	11.6%	27.9%	12.0%	13.9%
日用品の販売	20.4%	28.9%	32.8%	28.8%	34.2%	37.5%	25.3%	36.7%	27.5%	20.9%	29.9%	33.3%
灯油の宅配	20.4%	24.4%	29.3%	30.0%	37.0%	25.0%	24.1%	25.0%	21.7%	30.2%	18.8%	23.1%
地域の人が作った商品の販売	13.0%	4.4%	6.9%	13.8%	2.7%	16.1%	10.3%	11.7%	11.6%	9.3%	5.1%	19.4%
銀行や郵便局の出張	14.8%	13.3%	20.7%	28.8%	24.7%	16.1%	20.7%	35.0%	23.2%	20.9%	12.0%	22.2%
声かけ・安否確認	24.1%	31.1%	31.0%	37.5%	19.2%	16.1%	12.6%	28.3%	29.0%	30.2%	20.5%	25.0%
会話・相談相手	16.7%	13.3%	10.3%	18.8%	12.3%	16.1%	13.8%	15.0%	8.7%	16.3%	12.0%	11.1%
ごみ捨て	16.7%	13.3%	10.3%	7.5%	9.6%	14.3%	13.8%	15.0%	8.7%	14.0%	7.7%	9.3%
除雪の手伝い	55.6%	55.6%	46.6%	41.3%	50.7%	44.6%	55.2%	48.3%	47.8%	41.9%	47.0%	54.6%
荷物の宅配	11.1%	15.6%	8.6%	17.5%	16.4%	12.5%	11.5%	11.7%	14.5%	7.0%	10.3%	10.2%
家事（調理や掃除）の手伝い	1.9%	13.3%	5.2%	5.0%	12.3%	7.1%	14.9%	11.7%	5.8%	2.3%	10.3%	7.4%
家庭で作った農産物の集出荷サービス	11.1%	6.7%	6.9%	8.8%	2.7%	7.1%	3.4%	6.7%	7.2%	7.0%	2.6%	7.4%
自宅から地域内での乗り合い外出	29.6%	26.7%	15.5%	17.5%	27.4%	17.9%	11.5%	15.0%	10.1%	30.2%	22.2%	22.2%
自宅から町までの乗り合い外出	16.7%	15.6%	13.8%	32.5%	24.7%	14.3%	14.9%	23.3%	18.8%	32.6%	23.9%	31.5%
その他	3.7%	2.2%	6.9%	7.5%	1.4%	5.4%	5.7%	0.0%	1.4%	2.3%	4.3%	6.5%

○交流やまちづくりに対する意識では、「町民が積極的に地域づくりに取り組むこと」や「豊かな暮らしを送るうえで、いろいろな人々との交流が必要」といった意見が多くなっています。

(SA) N=992



資料：邑南町人口ビジョン・総合戦略策定のためのアンケート調査（2015年）

表 11 暮らしの中の交流やまちづくりに対する意識

## 6-5 地域振興や観光振興に関する留意点

### 6-5-1 道の駅瑞穂の再整備

- 平成 29 年度より道の駅瑞穂の再整備構想が検討されており、道の駅には人・物・エネルギーをつなぐ新たな拠点としての機能が求められています。
- 道の駅の再整備構想に合わせて、交通の役割の検討と 12 地区をつなぐ方策の検討が必要となっています。

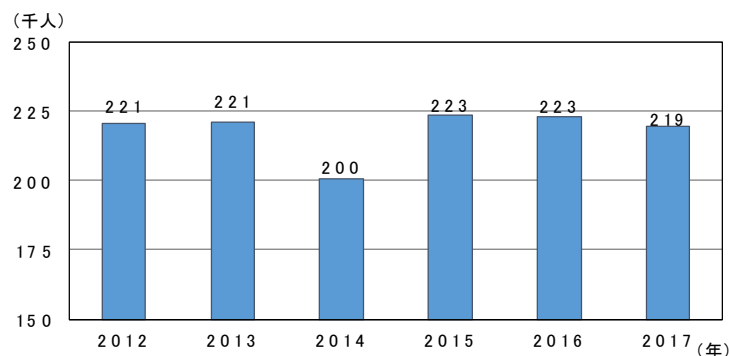


図 46 道の駅瑞穂 来訪者数の推移

## 6-5-2 観光振興

- 邑南町内施設への観光入込客数は減少傾向となっています。
- 町内には観光スポットが点在しており、自動車利用以外で町内の観光スポットの周遊は困難な状況にあります。
- JR 三江線の廃止に伴い、旧駅舎や線路などの鉄道遺産を活用した活動も行われており、江の川沿線圏域での連携も求められています。



図 47 NPO 江の川鐵道によるトロッコ車両試運転の様子（中国新聞より）

## 6-6 取り組むべき課題

### 課題① 住民が安心して暮らすことのできる交通環境の整備

- 車の運転が難しい高齢者や児童・生徒などを中心に、移動に関する不安を抱えることなく安心して暮らすことのできる交通環境を整備することが求められています。

### 課題② 高齢者が利用しやすいサービスの提供

- 町内の多くの路線は、高齢者の通院や買い物といった移動ニーズを賄っている一方で、通学対応を中心に運行されているため、高齢者には利用しにくい運行時間となっており、また、高齢者からはバス停までが遠いといった意見もあがっています。高齢者が利用しやすいサービスの提供が必要です。

### 課題③ 通学に利用しやすいサービスの提供

- 町内の多くの路線は、通学対応を中心に運行されていますが、授業の時間に合わない便や学校行事への対応が困難な場合もあり、対応が必要です。また、保護者による送迎も多くなっており、こうした保護者の負担軽減も必要です。

### 課題④ 道の駅を拠点とした広域的な交通ネットワークと補完するサービスの構築

- 浜田市、三次市、北広島町といった町外への移動の選択肢に制約があり、このような町外への移動ニーズに対応したサービスの検討が必要です。また、三次市方面など広域的なネットワークが確保されている場合でも、バス停までのアクセスに課題があり、広域的な交通ネットワークとこれを補完するサービスの構築が必要です。特に、道の駅瑞穂の再整備構想が検討されており、町内外をつなぐ交通ネットワークの拠点として、道の駅瑞穂が機能することが求められています。

## 課題⑤ 効率的なサービスの構築

---

○おおなんバスは、利用者数が減少する一方で運行経費が増加する傾向にあります。利用の少ない路線や収支率の低い路線の運行内容を見直し、効率的なサービスを構築することが求められています。

## 課題⑥ 利用者目線に立ったわかりやすいサービスの提供と情報発信

---

○町内の各路線は合併前の運行が引き継がれ、谷筋ごとに細かく運行されており、初めて利用する人にはわかりにくい運行となっています。時刻表やバスマップの他、バス停周辺環境や乗車環境などの情報提供も見直し、利用者目線に立ったわかりやすいサービスとする必要があります。また、積雪時などのバス遅延情報や運休情報など、迅速に伝えることのできる仕組みづくりも必要です。

## 課題⑦ 地域住民の主体性を活かした拠点づくりと交通サービスの検討

---

○町内12の公民館区では、それぞれ地域住民が主体となった活動が活発に行われています。一方で高齢化率が高まり、社会サービスも減少する中で、より一層住民間の交流や外出を促進する仕掛けも必要となっており、こうした出かけたくなる機会とそこまでの移動手段について、住民の主体性を活かしながら検討することが求められています。

## 課題⑧ 関係主体の連携強化

---

○住民を対象とした移動サービスは、おおなんバスの他にも民間交通事業者による路線バス、タクシー、地域住民主体による活動など、複数の主体によって対応されています。今後、利用しやすく効率的なサービスを提供するためには、住民や交通事業者、庁内の関係セクション、目的地となる施設など、さまざまな関係主体が連携した取り組みの推進が必要です。